



共同宣言に拍手するP C米国支部の巡礼団（左側）と広島市の被爆者6団体（右側）＝10日、広島市

核禁条約参加へ共同宣言

広島

1945年8月の米軍による広島、長崎への「原爆投下」に対する謝罪表明と和解に向けた対話集会」が10日、広島市の世界平和記念聖堂（広島カトリック教会）で行われました。

謝罪を表明したのはカトリック教会の国際的な平和団体「パックス・クリスティ（P C）米国支部の巡礼団」。来日したメンバー11人が被爆地広島を訪れ、広島市の被爆者6団体の代表者に直接、謝罪の

被爆者団体と米巡礼団集会

意向を伝えました。握手やハグをする場面がありました。

対話集会冒頭、一般参加者とともに、原爆犠牲者と世界のヒバクシャへ黙とう。カトリック広島教区の白浜満司牧師は、2019年に来広したローマ・カトリック教会のフランシスコ教皇が述べた「核兵器の保有自体が倫理に反する」との言葉にも触れながら市民レベルでの対話集会の開催を歓迎し、「核兵器廃絶、世界の平和につながることを願う」と述べました。

P Cの共同代表が「米国政府は被爆から78年が過ぎた今日までまだ公式な謝罪を表明していない」「核兵器の完全な廃絶をめざして歩む良きパートナーとして、ともに祈り、声を上げ、行動するため努力を惜しまない」と謝罪を表明。その後、米国政府には原爆投下について、公式に謝罪を表明することや、核保有国と日本政府に核兵器禁止条約への参加要請、核抑止を否定することなどを盛り込んだ共同宣言が読み上げられると、会場から拍手が湧き起りました。

対話集会後に開かれた記者会見では、双方から前向きな意見や感想が出されました。